

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172700492		
法人名	社会福祉法人 誠由会		
事業所名	グループホームハピネス狭山		
所在地	狭山市富士見2-16-8		
自己評価作成日	平成27年10月25日	評価結果市町村受理日	平成28年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成27年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気とゆったりした時間の流れの中で、入居者の方々が一人ひとりにその人らしい生活をして頂けるよう、見守り重視のケアを心がけ、出来るだけ自立して生活して頂けるように環境を整え支援している。
 その方の生活歴から得意なこと、昔行われていたことなどを把握した上で、日々の自立支援に繋げている。
 また、職員は時節柄の行事を大切に、ミニ旅行、買い物など外出の機会を特別なことではなく、毎日の生活の一部となるよう入居者の方々と一緒に楽しみながら支援を行っている。
 事業所の特性上、グループホームは5階にあり、展望が良く、富士山を眺めることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・「介護ではなく支援を目指す」という理念に基づいた考え方が管理者と職員の間で共有され、「待つこと」、「手を出しすぎないこと」が職員一人ひとりのケアにあらわれている。リスクを恐れず、利用者の自由を奪うことなく、利用者がやり遂げた満足感を味わえるような質の高い支援に取り組まれている。
 ・ご家族のアンケートでも、「毎月いろいろなイベントを開催してくれる」、「内部お祭り会、ビンポン、トランプ、健康体操など、本人のためによくやってもらっている」、「本人の身体の変化等をよく観察してくれています」などのコメントが寄せられ、利用者それぞれへの職員のきめ細やかな対応が高く評価されている。
 ・目標達成計画の達成状況については、防災対策における地域との連携協力体制作りを取り上げ、地域との相互理解を得るための日常的なコミュニケーションづくりを主体に継続的に取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングなどで職員間で理念の確認を行い支援を行っている。また、職員の入職時に、説明の機会をもうけている。	「手を出しすぎず、出来ないことを手伝い、利用者に達成感と満足感を感じていただく」との考え方を基本に、「介護」ではなく「支援」との姿勢が全職員に浸透されている。利用者の声なき声に耳を傾け、心に寄り添うケアが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日には散歩や買い物に出かけられるよう心がけている。また、地域の夏祭りや事業所の納涼祭など地域との交流をはかっている。ボランティアとして以前入居されていた方の娘さんの来訪が定期的であり、行事等にも参加頂いている。	事業所の納涼祭や地域の盆踊りなどを通して、相互交流が図られている。また、日常的に近所のスーパーに買い物に出かけたり、幼稚園に挨拶に行くなど、様々なつきあいがなされているほか、元利用者の娘さんもボランティアとして受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の介護保険課の依頼により市民大学「認知症サポータ養成講座」の研修生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議とはどのようなものか」を知って頂く為に役割について説明したものを送付している。ご家族の来訪時に、ご意見を伺っている。会議内で、頂いた意見と合わせてミーティングで職員間で共有し、サービスの向上を目指している。	家族に運営推進会議の目的を伝えたり、事業所の行事と併行して開催するなど、参加者が参加しやすい工夫が図られている。日常の取り組みなど報告することで理解を得ている。特に外出の機会が多いことなどに高い評価が得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営上、困った事象、不明な点はその都度連絡し相談を行っている。	市担当者との連携が図られており、運営推進会議にも参加をいただき、介護保険法改正などについての説明や、家族から質問を受けた医療や生活保護の対応について説明をいただくなど、良好な関係が築かれている。	市主催の「事例検討会」などが催されています。このような研修会を利用して、市や地域の他事業所との交流を図り、情報収集されサービスの向上に繋がれることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については開設以来一度も行っていない。研修に参加し、ミーティングの際、伝達し職員間での共有し、徹底している。	身体拘束防止の観点から、上から目線の言葉使いなどについてミーティングなどで話し合われている。利用者とは「合わせ鏡」と考え、対応の仕方次第で利用者に影響を及ぼすことなどにも気を配られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「養介護施設従事者等向け高齢者虐待防止研修」に参加、ミーティングで虐待のないよう支援する事を共有し、防止に努めている。また今後、「高齢者虐待防止マニュアル」を作成予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度を利用されている方が入居されている。実践者研修にて学び、他職員にもミーティングなどで学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者や計画作成担当者から十分に説明を行いご理解、ご納得頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議への参加を呼び掛けている。また、会議の議事録を毎月の発行物に添付している。面会時に伺ったご要望等は、運営推進会議での議題に取り上げ、運営に反映させている。	利用者の意見には真摯に向き合い、「お手伝いがしたい」、「外に出てラーメンが食べたい」などの要望にも応えられている。家族からは面会時や電話で、医療や看取りなど、家族が不安に思われていることの話をお聞き、事業所運営にも取り入れられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回ミーティングを開き、業務内容・支援方法など話し合い、運営の関する提案の場を設けている。また、業務上においても常に話し合える関係が築けるよう努めている。	管理者が「皆で話し合う」姿勢を持ち、ミーティングだけでなく、日常的に職員の意見を聴く機会が設けられている。利用者の気持ちに応じて、職員が企画した「鎌倉ミニ旅行」が実施されるなど、利用者へのサービスや業務についての意見・提案が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設内の会議などで現場での状況把握を努めると共に、個別の面談や、世間話などから、職員の労働条件や仕事への思い、やりがいなどを把握し、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの能力にあった職員育成を行っている。また、研修等を受けた職員が他職員に伝達講習を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	介護保険改正時に、市内他事業者が開催した研修会に参加。また困難事象の相談等、市内の他事業者、地域包括支援センターへ相談するなどし、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネジャーなどからの情報を得ると共に、入居にあたっての事前情報を職員間で共有し、日々の生活の中でコミュニケーションを図り不安や要望を把握し支援に活かすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご家族の要望等を伺い、支援の方法を提案。近況報告等の電話連絡時や来訪時に、再度要望を伺い、不安が軽減出来、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を知る見極める為、職員間で話しあい、支援に反映するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の全体像をとらえるよう努め、楽しみや喜びを感じられるよう、また、生きがいとなるような役割を感じて生活してもらえるような支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時、積極的にお話しするよう機会を設けている。また、必要な情報をご家族にも提供し、日々の生活を把握して頂き、共に協力し支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力により食事や外出、ご自宅にいかれる方もいる。携帯電話でご家族とこまめに連絡をとられる方もいる。	入居前につきあいのあった自治会やスイミングスクールの友人が訪ねて来られたり、好きな絵を見に美術館に出かけるなどの支援が行われている。また、家族の協力で、お墓参りや葬儀へ出かけられる利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみ、食器洗い、食事の準備など毎日の生活の中で、共同し支え合いながら、生活をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者のご家族に行事などに、参加していただいている。入居されていた頃の、悩み、家族としての思いなど率直に伺い、支援の参考にさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人の思いや暮らしの要望をご家族や本人に伺い、これまでの生活歴などを情報収集するよう努めている。	利用者はもちろん家族の思いも反映されるよう、家族に「暮らしのカルテ」を記載していただいている。利用者について、出生から現在までの人生を共有することで、日常のケアや介護計画作りにも活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人の生活歴を記入して頂く用紙を用意している。ご家族に記入をお願いしている。地域包括支援センターや担当ケアマネージャーとも連絡をとり、情報収集につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノートを活用し、職員同士の情報伝達・共有を図り、現状の把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来訪時に情報を伝え、要望を伺っている。定期的にモニタリングし、意見交換を行い、支援方法を話し合い、計画担当者が介護計画作成に反映している。	「今何が必要か、支援が目に見えるプラン」作りが行われ、利用者一人ひとりの日常生活での具体的な目標が明確にされている。利用者の意欲や家族の希望を反映させ、少し支援すれば出来ることを内容に盛り込むよう努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活行動記録を基に、職員間で情報を共有し支援を行っている。また、ミーティングを活用し、職員間での徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方で、高齢な為通院が難しいとの事で往診を提案し行っている。また、今後おこりうるであろう、看取りについて、代表者、職員間で勉強し議論を重ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の弁当屋に昼食を買いに行ったり、事業所の隣にある和食レストランに外食に行っている。また、天気の良い日には、散歩や買い物など行っている。事業所1階の歯科医や美容室を定期的に利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に、日頃の様子をお伝えし通院介助をして頂いている。様子に変化がある際は、書面にし情報を提供したり、状況によっては職員同行し医師から直接話を聞くなど対応している。	かかりつけ医への通院時には、医師、家族、事業所の間で情報のやり取りが正確に行われるよう、情報提供の文書や連絡ノートが活用されている。協力医療機関とは夜間や休日などでもソーシャルワーカーを通して相談、対応ができる仕組みとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所のデイサービス看護師に状況を伝え、相談などの連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はご家族から情報を伺うと共に、見舞いに行った職員からの情報共有したり、入院先の相談員などと連絡を取り合い情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針について、ご家族には入居時に説明する他、その都度、個別で面談を行い今後の方向性や、施設として出来る事など含め、一緒に検討して頂けるよう努めている。また、市役所や地域包括支援センターへ相談し、助言の機会を設けている。	利用者や家族の思いを聴きながら、事業所としてできることを話し合うよう努められている。重度化され、常時医療行為が必要な時は、ケースバイケースで対応し、市担当者にも相談し、他の施設や病院の提案も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成、職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の消防、避難訓練を定期的実施。近隣居住の職員が多く、事業所内で連絡体制をとっている。自治会活動に継続して参加し、高齢者施設である認識を持ってもらえるよう努めている。	建物全館合同の避難訓練が実施され、各サービス間の協力体制は構築されている。緊急連絡網に基づいた職員の動きや役割分担が確立され、建物の5階を踏まえた避難誘導の方法についても消防署との連携が図られている。	建物の特性を考慮した防災対策が進められております。また、地域との協力体制の確立が大切と想定されることから、運営推進会議などを通して近隣への協力の呼びかけを継続されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴や家族からの情報を基に、好きなこと、嫌いなこと、介護に対する要望や願いなどを把握し、職員間でその人が中心となるような対応を心がけている。	利用者について職員間で話すときは、インシャルや暗号で対応され、特に排泄や入浴、病気などのデリケートな面でのプライバシーへの配慮がなされている。古い書類の扱いなどにも気を配り、保管場所の確保とシュレッダーの利用が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、選択できることはご本人に選択して頂けるような声かけ、対応に努めている。また、喜怒哀楽の感情や、自分らしさが出せるような環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望を聴き、その時々で臨機応変に対応するよう心がけている。入居者の方々のニーズに合わせて一日を過ごすように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装について、起床介助時や更衣時など、季節や好みに合わせて何枚か選択し、選んで着て頂くよう支援している。理美容は当事業所1階にあり、定期的に利用されている。お化粧されている方もおり、化粧品が無くなった際には、一緒にドラッグストアに買い物に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、楽しい食事を心がけている。食事作り、配膳、下膳、洗い物など出来る事は行ってもらっている。	宅配で食材の手当てをしているが、利用者の一人ひとりの好みなどが取り入れられ、敬老会では皆で回転ずしに出かけられているほか、食事の準備や後片づけなどについても、利用者同士が協力し合って参加されるなど、食事を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は日々の生活記録に記入し、状態の把握に努めている。不足気味の際は、補食として他のものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には職員が声掛け、見守り、一部介助しながら行っている。また、定期的な歯科受診を行い、医師より適切な口腔ケアの指示を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄記録や排泄パターンを職員間で把握することや、表情やしぐさなどの言葉以外の部分からも察知してタイミングの良い声掛け、誘導を行い、自立に向けた支援を心がけている。	「トイレに行きましょう」などの声かけをむやみに行うことなく、利用者のプライドに配慮しながら、できるだけ自分の意志でトイレに行っていたらいい。水洗の使い方の手助けをするなど安心してトイレが使えるよう細かな点への支援にも努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄しやすいよう水分摂取を促したり、食物繊維や乳製品などの排泄を促しやすい食材を献立やおやつなどに取り入れて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、夕食後に入浴の時間を設けている。ご本人のタイミングが合わない際は、無理強いせず、翌日、もしくは昼間に行い、入浴の時間を楽しみを感じてもらえるよう支援している。	夕食後、毎日でも希望があれば入浴することができるよう支援が行われている。利用者には気持ちよく入っていただけるよう、無理強いすることなく、また、パネルヒーターや床暖房などで浴室の温度差の解消に努め、安全面への工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えながら、生活習慣を把握し本人のペースに合わせ休息を促している。起床や就寝の時間もそれぞれ異なる為、個々に応じて声掛けや見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作成し個々の内服薬についての目的や副作用、用法、用量を把握している。薬の内容に変更がある際は、必ず申し送りし、より注意深く、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族の情報を基に、一人ひとりの生活歴を把握し、それに応じた役割や出来る事、好きな事は何か、職員間で検討し支援に反映している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に合わせて花見、自治会の夏祭り、秋のミニ旅行を企画している。ボランティアの方やご家族の協力もあり、行っている。ほか、買い物、散歩、外食など生活の中で行っている。	外出を日常生活の一部と考え、利用者の希望を取り入れながら積極的な支援が行われ、地域との交流を兼ねた散歩や買い物などにも頻回に出かけ、職員の工夫やボランティアの協力により、鎌倉へのミニ旅行なども試みられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から個人用にお金を預かり買い物などの際、要望があればいつでも使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室には、電話回線があり、固定電話を引いている方、携帯電話を持ち込まれている方がいる。また、どなたでも事業所内の電話を使用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角に畳敷きの和室を設けている。めだかなどの飼育、歳時物(雛飾り)などを飾り、日常生活の中で家庭的な雰囲気を取り入れている。ベランダでは洗濯物を干したり、家庭菜園を行ったりするようなど生活感や季節感を感じてもらえる工夫をしている。	「利用者が自由に動かれること」を基本にした共用空間となっており、キッチンやベランダなどへの出入りもまったく自由で、職員がさりげなく見守られている。利用者の参加意識を大切に、リビングや廊下の清掃は利用者と職員とで行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に椅子を多めに配置し、リビング、ベランダ、廊下、日当たりのいい場所を見つけ、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、居心地のいい部屋になるようご家族とも相談し、好みや習慣に合わせたものを自由に持ち込んで頂き居室レイアウトを検討している。ADLも含めての動線の確保に合わせてベッドやタンスなどの配置を工夫している。	居室内の自由が確保され、テーブルや籐椅子、箆笥などが思い思いに配置され、ゆっくり読書をされる利用者の姿も見受けられる。洋服をハンガーにかけておくことで、好みの洋服が選択できるなど、利用者の意志が尊重されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で一人ひとりの「できること」「わかること」の情報を共有しチームケアを行っている。危ないからといってすべてを取り上げるのではなく、その方の現状を把握した上で、出来るだけ自立したその人らしい生活が送れるよう支援している。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームハピネス狭山

目標達成計画

作成日:平成 28年 1月 28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	地域の他事業所との交流を図る	市や地域の他事業所との交流を図り、情報収集しサービスの向上に努める。	市主催の事例検討会等の研修会に参加し、市や地域の他事業所との交流を図り、情報収集しサービスの向上を目指す	12ヶ月
2	35	災害対策時の地域との協力	災害時の地域との協力体制づくりの継続	内部の取り組みとしては連携の強化、体制の構築を継続して行っていく 近隣への周知として、運営推進会議などを通して、地域の方々に発信する他、自治会などの行事参加、納涼祭へ近隣住民の方に参加をお誘いし、地域の中で暮らす認知症高齢者施設の存在を地域の方へ広め、相互の消防訓練に参加する等、地域との交流を深め相互協力の体制作りを目指す	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。